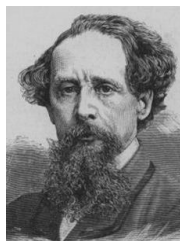


* 特集 *

ディケンズ 作品ガイド



チャールズ・ディケンズ
(1812-1870)

58歳でその生涯をとし、
ウェストミンスター寺院に眠る



イギリス、ヴィクトリア朝時代の国民的作家。
物語の面白さ、個性的な登場人物、印象的なセリフなど、数百年に一度の天才。
リズムの良い語り口は、音読にも向き、英語の多読学習にもオススメです。
数あるディケンズ作品から、特に有名なものをご紹介します。

ピクウィック・ペーパーズ The Pickwick Papers

ジャンル

コメディ・ロマンス

時代

1827-1835

場所

イングランド各地

ペンネーム「Boz (ボズ)」で出版された初期の出世作

・ 笑いを巻きおこす英国発冒険小説

元実業家の陽気なピクウィック氏が、従者のサムとともに各地を巡る旅行記。行く先々で、人を助け悪を懲らしめようとするが、人が良すぎて失敗ばかり。ユーモアあふれる各エピソードは独立しながらも、話が繋がっており、登場人物は300人を越す。当時は分冊で発行され、続刊が出るたびに人気が高まった。

オリヴァー・ツイスト Oliver Twist

ジャンル

ミステリー・ドラマ

時代

19世紀前半

場所

イギリスの田舎
ロンドン

「どうか、もっとおかゆが欲しいんです。」

・ 元ジャーナリストの視点で下層市民を描いた社会小説

救貧院生まれの孤児オリヴァーは、十分な食事も与えられず、煙突掃除屋や葬儀屋のもとを転々、辛い仕打ちにあう。9歳のある日、ついにロンドンへ逃れたオリヴァーは、道中で会った少年に住居や仕事を紹介されるが...。逆境の中でも純真さを失わないオリヴァーが、苦難を乗り越え、成長する物語。

ドンビー父子 Dombey and Son

ジャンル

センチメンタル・ロマンス

時代

19世紀初め

場所

ロンドン

・ 工業化するイギリスを疾走する蒸気機関車で象徴

大会社“Dombey and Son”を経営しているドンビー氏には、後継者となる息子がおらず、悩んでいた。
48歳の時に、待望の息子ポールが生まれ、大きな期待を寄せ、熱心に教育するが...。家名とプライドのみに心を奪われ、他者を顧みないドンビー氏が送った人生とは。
産業革命により社会が大きく変化する中で、人間の本質を問う。

デイヴィッド・コパフィールド David Copperfield

ジャンル

コメディ・一代記

時代

19世紀初頭

場所

イングランド

「今日できることは決して明日にしないことだ。
先延ばしは、時間泥棒である。」

・ ディケンズ自身が最も気に入っていた小説

少年デイヴィッドは、母の再婚により、冷酷な継父のもと苦難の日々を送る。母の死後、意を決して逃げ出した彼は、ドーヴァーに住む大伯母の家を目指し、徒歩の旅を始める。逆境にあっても人間への信頼を失わず作家として大成したデイヴィッドと、彼をめぐる個性豊かな人間群像。

二都物語 A Tale of Two Cities

ジャンル

歴史ロマンス

時代

フランス革命時代

場所

フランス
イングランド

「最良の時代にして、最悪の時代だった。
知恵の時代であって、愚昧の時代だった。」

・ フランス革命下に始まる恋と運命の変転

フランスの暴政を嫌って渡英した亡命貴族のチャールズ・ダーニー、イギリス人弁護士シドニー・カートン。2人の青年は、無実の罪で長年投獄されていた医師マネットの娘ルーシーに思いを寄せる。時代の荒波に翻弄される3人の運命は…。

大いなる遺産 Great Expectations

ジャンル

ミステリー・ロマンス

時代

19世紀

場所

イングランド

・ 痛烈なユーモアと深い情感で、人間社会の悲喜交々を描く

寂しい田舎で義兄夫婦と暮らしている孤児ピップ。ある日突然、名を伏せた人物から莫大な遺産を相続する。思いがけない財産を得たピップは、ロンドンに出て、上流階級の紳士になることを目指すが…。各々の思惑が複雑に絡まりあう緊密なプロットと社会批判が見事に結びついた作品。

クリスマス・キャロル A Christmas Carol

ジャンル

ファンタジー

時代

19世紀前半

場所

ロンドン

「世の中に笑いや面白いユーモアほど、たまらなく伝染するものはない。」

・ 世界中でもっとも愛されているクリスマス・ストーリー

意地悪で欲深いスクルージは、クリスマス前夜、かつての共同経営者マーレイの亡霊と対面する。マーレイは、生前の罪で鎖につながれた自らの姿を見せ、彼に今の生き方は間違っていると話す。その後、「過去」「現在」「未来」の3人の精霊に導かれて、スクルージは忘れていた心を取り戻す。